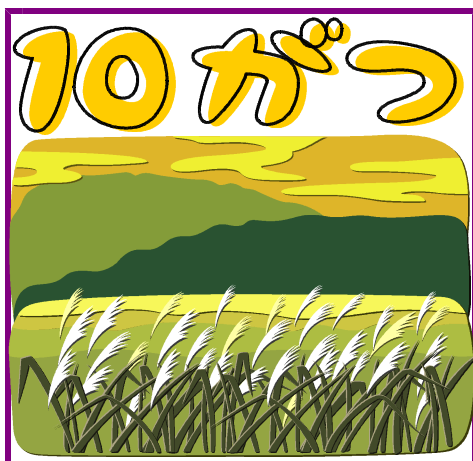


めぐみイエス・キリスト教会

2022年10月9日(日)第二主日礼拝
週報「通算第628号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌21「輝く日を仰ぐとき」	p. 28
【交読文】	No.24 詩篇第67篇	p. 898
【賛美Ⅱ】	新聖歌320「世の波風に」	p. 508
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「主の御前に」	
【聖書朗読】	使徒の働き20章1節～6節	
【礼拝説教】	《エペソからコリントへ》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※聖書箇所 使徒の働き20章1節～6節(新約p. 276上段)

20:1 騒ぎが収まると、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げ、マケドニアに向けて出発した。

20:2 そして、その地方を通り、多くの言葉をもって弟子たちを励まし、ギリシアに来て、

20:3 そこで三か月を過ごした。そして、シリアに向けて船出しようとしていたときに、パウロに対するユダヤ人の陰謀があったため、彼はマケドニアを通過して帰ることにした。

20:4 彼に同行していたのは、ピロの子であるベレア人ソパテロ、テサロニケ人のアリストアルコとセクンド、デルベ人のガイオ、テモテ、アジア人のティキコとトロフィモであった。

20:5 この人たちは先に行って、トロアスで私たちを待っていた。

20:6 私たちは、種なしパンの祭りの後にピリピから船出した。五日のうちに、トロアスにいる彼らのところに行き、そこで七日間滞在した。

●ポイント1.「多くの言葉をもって弟子たちを励まし」たとは？

※ヨハネの福音書14章23節抜粋～27節「イエスの言葉」(新約p.215)

14:23 「だれでも私を愛する人は、私の言葉を守ります。そうすれば、私の父はその人を愛し、私たちはその人のところに来て、その人とともに住みます。

14:24 私を愛さない人は、私の言葉を守りません。あなたがたが聞いている言葉は、私のものではなく、私を遣わされた父のものです。

14:25 これらのことを、私はあなたがたと一緒にいる間に話しました。

14:26 しかし、助け主、すなわち、父が私の名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、私があなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

14:27 私はあなたがたに平安を残します。私の平安を与えます。私は、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。」

●ポイント2.「ギリシャ」とは？

※第Ⅱコリント9章1節～12節「使徒パウロの勧め」(新約p.366上段中)

●ポイント3.「トロアス」とは？

■**トロアス** 小アジアの北西部ムシヤ地方にあってエーゲ海に面する港町。パウロは第2回伝道旅行中、この地でマケドニヤ人が自分を招く幻を見、海を渡ってヨーロッパへと進んだ。第3回伝道旅行にもエペソから渡航し、再びマケドニヤへ向かった。その帰途には、ユダヤ人の妨害によってやむなく離別したテモテ、アリストアルコといった同労者とこの地で落ち合い、7日ほど滞在した。また、カルポという名の協力者がこの港町におり、上着と巻物の保管を依頼した事がある。

◎先週の礼拝メッセージ【町の書記官の仲裁】

《劇場になだれ込んだ群衆は、それぞれが違ったことを叫んでいました。実際、集会は混乱状態で、大多数の人たちは、何のために集まったのかさえ知らなかったのです。さて、群衆の中のある者たちは、アレクサンドロに話すよう促しました。そこで、彼は手振りで静かにさせて、群衆に話そうとしたのですが、彼がユダヤ人だと分かると、事態はさらに悪化しました。聖書には、アレクサンドロと言う人物は二人しか出て来ません。一人は、主イエスの十字架を代わりに担いだクレネ人シモンの息子で、もう一人はテモテの手紙に書かれた、背教者となったアレクサンドロです。『銅細工人のアレクサンドロ』とも書かれていますから、彼がエペソからやって来たことは、間違いありません。

さて、この時「町の書記官」が立ち上がります。書記官とは、市議会を召集し、時として議長を務め、その決定を布告するエペソ第一の行政官で、市とエペソにあるローマ州の行政との連絡官も務めました。

また、彼は「アジア州の高官」の一人であったと考えられています。彼の弁論は、まさに的を射ており、群衆全員が十分に納得出来るものでした。彼の統率力そして指導力には目を見張るものがあります。

さて、ここから私たちは何を学ぶべきでしょうか。パウロは、『最後に、兄弟たち。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判の良いことに、また、何か徳とされることや称賛に値することがあれば、そのようなことに心を留めなさい。』と、勧めています。私たちは、この世に置かれています。そしてこの世の常識の中で生かされています。クリスチャンだからと言って常識を無視することは、決して良いことではありません。大切なことは、常識を踏まえた中で、世の光として、地の塩として、主イエスの証し人となって行くことではないでしょうか。》

お知らせ

※10月16日(日)の礼拝は、通常通りです。なお11月6日(日)の第一主日礼拝は、牧師の都合によりお休みとなります。ご注意ください。